

認定書

国住指第 2364 号平成 23 年 1 月 28 日

大和建材工業株式会社 代表取締役社長 岡本 健太郎 様



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項 (同法第 88 条第 1 項 において準用する場合を含む。)の規定に基づき、同法第 2 条第七号並びに同法施行令第 107 条第一号及び第三号(屋根:各 30 分間)の規定に適合するものであることを認める。

記

- 1. 認定番号 FP030RF-1085
- 2. 認定をした構造方法等の名称 めっき鋼板・木質系セメント板・ロックウール吸音材表張/軽量鉄骨下地屋根
- 3. 認定をした構造方法等の内容 別添の通り

(注意) この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名:

めっき鋼板・木質系セメント板・ロックウール吸音材表張/軽量鉄骨下地屋根

2. 申請仕様の寸法:

申請仕様の寸法を表1に示す。

表1 申請仕様の寸法

項目	申請仕様
支持部材の間隔	構造計算により構造安全性が確かめられた寸法
たるきの間隔	607mm以下
草材	仕様:①~⑥の一
	①横葺
	働き幅:175~607mm
	②縦葺
	働き幅:175~607mm
	③瓦棒葺
	働き幅:200~607mm
	④立平葺
	働き幅:175~607mm
	⑤平滑葺き
	働き幅:200~607mm
	⑥折板葺
	働き幅:200~800mm

3. 申請仕様の主構成材料: 申請仕様の主構成材料を表2に示す。

表2 申請仕様の主構成材料

TT F	表2 申請仕様の主構成材料
項目	申請仕様
たるき	材料:一般構造用軽量形鋼(JIS G 3350)
	形状:『形又は角形
	寸法: ①又は②
	① [-100×50×20×2.3mm以上
	②□-100×50×2.3mm以上
	間隔:607mm以下
葺材	材料:めっき鋼板
	材質:1)~14)の一
	1) 塗装溶融55%アルミニウムー亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3322)
	2) 溶融55%アルミニウムー亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3321)
	3) 塗装溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3312)
	4)溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3302)
	5) 塗装溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板(JIS G 3318)
	6)溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板(JIS G 3317)
	7)溶融アルミニウムめっき鋼板(JIS G 3314)
	8) 両面ポリエステル樹脂系塗料/アルミニウムめっき鋼板
	(国土交通大臣認定不燃材料:NM-9583、NM-9584)
	9)フッ素樹脂系塗装/裏面ポリエステル樹脂系塗装/アルミニウムめっき鋼板
	(国土交通大臣認定不燃材料:NM-9662)
	10) 両面アクリル樹脂系塗装/亜鉛めっき鋼板
	(国土交通大臣認定不燃材料: NM-8341、NM-8514)
	11)建築構造用溶融亜鉛ーアルミニウムーマグネシウム合金めっき鋼板
	(国土交通大臣認定指定建築材料: MSTL-0069、0070、0064及び0065)
	12)フッ化ビニリデン樹脂系塗装/両面アクリル・塩化ビニル樹脂系塗装/亜鉛め
	っき鋼板(国土交通大臣認定不燃材料:NM-8400)
	13)アルミニウム・亜鉛合金めっき鋼板(国土交通大臣認定不燃材料:NM-8027)
	14)ポリエステル樹脂系塗装/アルミニウム・亜鉛合金めっき鋼板
	(国土交通大臣認定不燃材料:NM-8028)
	厚さ:0.35~0.8mm
	降伏点: 205N/mm²以上
	塗装品の塗布量:70g/m²以下(有機質量)
裏打材	材料:なし
野地板	材料:1)、2)及び3)
CONTRACTOR CONTRACTOR	厚さ:29(-2)~75(+1)mm
1) 下張材	材料:吸音材(JIS A 6301): i)又はii)
590000 SILOVERSIONS	i)ロックウール吸音材(JIS A 6301)
	種類:(1)又は(2)
	(1) ロックウール吸音ボード
	一号、二号又は三号品
	(2) ロックウール化粧吸音板
	ii) 化粧グラスウールボード(国土交通大臣認定不燃材料: NM-8610)
	厚さ:9~25mm
	密度:40kg/m³以上
L_L	伍尺,40kg/ III 以上

つづく

つづき

野 2)上張材	材料:木質系セメント板(JIS A 5404)
也	材質:a)又はb)
板	a) 中質木毛セメント板(国土交通大臣認定準不燃材料: QM-9701)
	b)硬質木毛セメント板(国土交通大臣認定準不燃材料:QM-9701)
	厚さ:20(-2)~50(+1)mm
	密度:0.7g/cm³以上
3) 張合材	材料:a)~d)の一
	a) 酢酸ビニル系接着剤
	塗布量:100g/m²以下(有機質量)
	b) 無機質系接着剤
	塗布量:200g/m²以以上
	c)工業用ステープル(JIS A 5556)
	寸法:内幅4mm以上×足長10mm以上
	d)くぎ(JIS A 5508)
	長さ:20mm以上

4. 申請仕様の副構成材料:

申請仕様の副構成材料を表3に示す。

表3 申請仕様の副構成材料

-r n	表3 申請仕様の副構成材料
項目	申請仕様
たるき取付金具	材料:①及び②
	①一般構造用圧延鋼材(JIS G 3101)
	寸法:L-75×65×6mm以上
	②一般構造用圧延鋼材(JIS G 3101)
	寸法:平鋼FB-6×75×65mm以上(たる木ダブル部位仕様)
	取付間隔:607mm以下
	留付材:アーク溶接
	溶接幅: 2.3mm以上
	隅肉溶接長さ:20mm以上
	取付箇所: 2箇所以上
たるき留付材	材料:①及び②、又は③
C.2 C H1141	①六角ボルト(JIS B 1180)
	寸法: M12×長さ25mm以上
	②ナット(JIS B 1181)
	寸法: M12以上
	③アーク溶接
	溶接幅:2.3mm以上
シット 田田に 地	隅肉溶接長さ:20mm以上
	材料: ①又は②
覆	①けい酸カルシウム板(JIS A 5430)
	②ロックウール吸音材(JIS A 6301)
	厚さ:25mm以上
	密度:0.4(-0.04)kg/m³以上
	留付材:1)及び2)
	1) ドリリングタッピンねじ(JIS B 1125)
	寸法:呼び径φ4×長さ40mm以上
	留付間隔:400mm以下
	2)接着材
	材質:けい酸ナトリウム系
	使用量:265(-25)g/m以上
留付材	野地板用:
	材料:①又は②
8	①ドリリングタッピンねじ(JIS B 1125)
	②タッピンねじのねじ山をもつドリルねじ(JIS B 1124)
	寸法:胴部径 φ 4.0×長さ40mm以上
	留付間隔: 425mm以下
防水材	材料:(1)~(5の一
() () () () () () () () () ()	①アスファルトルーフィングフエルト(JIS A 6005)
	単位面積質量:1500g/m²以下
	②合成高分子系ルーフィングシート(JIS A 6008)
	少日成間ガースパン
	③改質アスファルトルーフィングシート(JIS A 6013)
	⑤ 収責
	・ 原さ:1.5mm以下
	子C.I.JIIII以下

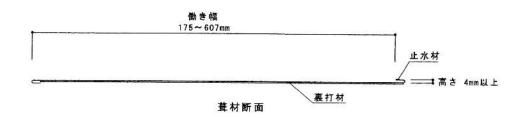
防水材	
甘 + + + + + + +	
基 材:ポリエチレン不織布 70.9(±3.0)	
表面材:ポリエステル不織布 19.0(±2.0)	
接着剤:エチレン-プロピレン共重合体 5.0(±0.5)	
防滑剤: ブタン内包発泡/アクリル樹脂 3.2(±0.3)	
防滑剤:スチレン-アクリル酸共重合体 1.9(±0.2)	
厚さ:0.41mm以下	
有機質量:1500g/m²以下	
止水材 仕様:あり又はなし	
材料:1)~4)の一	
1) EPDM系ゴム	
2)ブチルゴム系	
3)ポリ塩化ビニル系	
4)合成ゴム系ホットメルト	
使用量:15g/m以下(有機質量:10g/m以下)	
寸法:幅10(±1)mm×厚さ5(±1)mm	
吊子 材料: 葺材と同じ	
(
~⑥に使用) (但し、アルミニウム板は厚さ:0.5~2.5mm)	
幅:35mm以上	
取付間隔:607㎜以下	
(但し、⑥仕様の場合は取付間隔:800mm以下)	
吊子留付材 - - - - - - - -	
(章材仕様: ① 材料: 1)~4)の一	
~⑥に使用) 1)ドリリングタッピンねじ(JIS B 1125)	
2) タッピンねじのねじ山をもつドリルねじ(JIS B 1124) 3) タッピンねじ(JIS B 1122)	
3)グラビンねじ(JIS B 1122) 4)すりわり付きタッピンねじ(JIS B 1115)	
寸法:胴部径 φ 4.0×長さ40mm以上	
1 位:加州市民 単生 リハ及 0 年の間100人工	
葺材仕様⑥の場合:	
材料:1)及び2)	
1) 六角ボルト(JIS G 1180)	
寸法: M6×長さ20mm以上	
2)ナット(JIS B 1181)	
寸法: M6以上	
タイトフレーム 材料: 葺材と同じ	
(葺材仕様:⑥ 厚さ:0.35mm以上	
に使用) 幅 : 35mm以上	
間隔:800mm以下	
タイトフレー 材料:(1)又は(2)	
ム留付材 (1)ねじ:1)~3)の一	
(葺材仕様:⑥ 1) タッピンねじ(JIS B 1122)	
に使用) 2) ドリリングタッピンねじ(JIS B 1125)	
3) タッピンねじのねじ山をもつドリルねじ(JIS B 1124)	
(2)アーク溶接	
溶接幅: 2. 3mm以上	
隅肉溶接長さ:20mm以上	

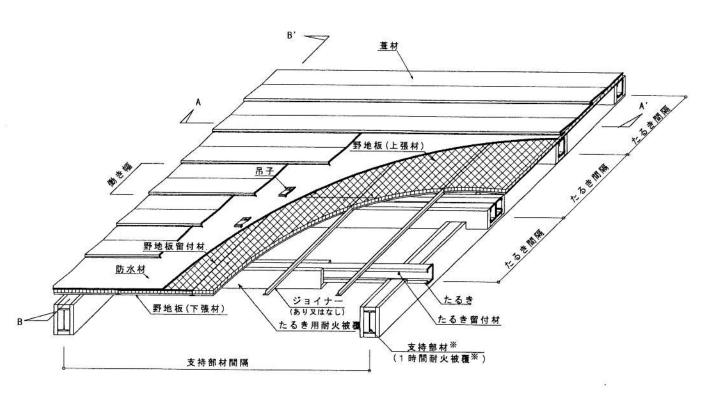
つづき

キャップ 仕様:あり又はなし(はぜ締め仕様の場合) (葺材仕様:②~材料:葺材と同じ ⑥に使用) 厚さ: 葺材と同じ (但し、アルミニウム板は厚さ:0.5~2.5mm) ジョイナー 仕様:あり又はなし 形状:①、②又は③ ①T形 ②H形 ③ハット形 材料:1)~8)の一 1) 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3322) 2)溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3321) 3) 塗装溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3312) 4)溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3302) 5) 塗装溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板(JIS G 3318) 6) 溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板(JIS G 3317) 7)ステンレス鋼板(JIS G 4305) 8) 塗装ステンレス鋼板(JIS G 3320) 厚さ:0.25mm以上

5. 申請仕様の構造説明図:

申請仕様の構造説明図を図1~図12に示す。

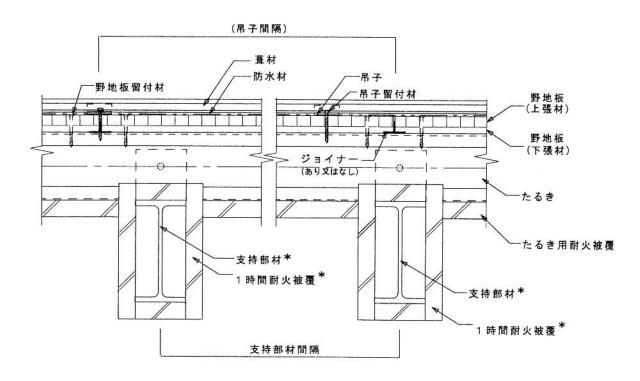




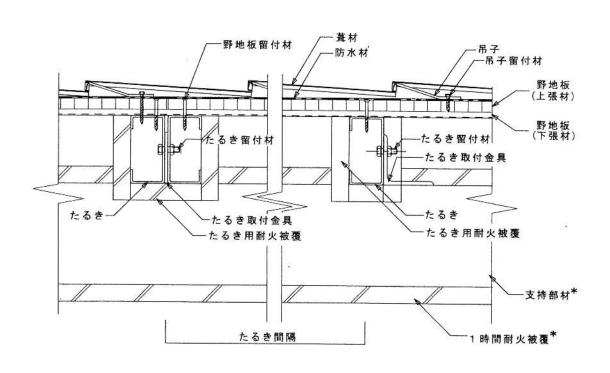
※評価対象外

透視図

図1 構造説明図〔①横葺仕様〕



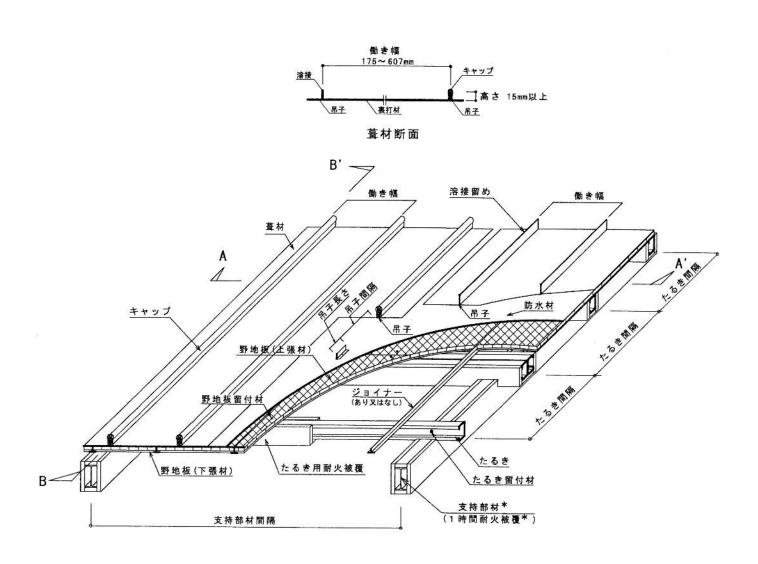
A-A'断面詳細図



B-B' 断面詳細図

*:評価対象外

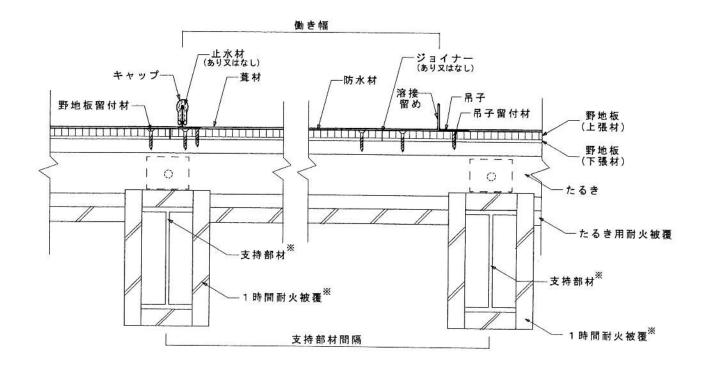
図2 構造説明図〔①横葺仕様〕



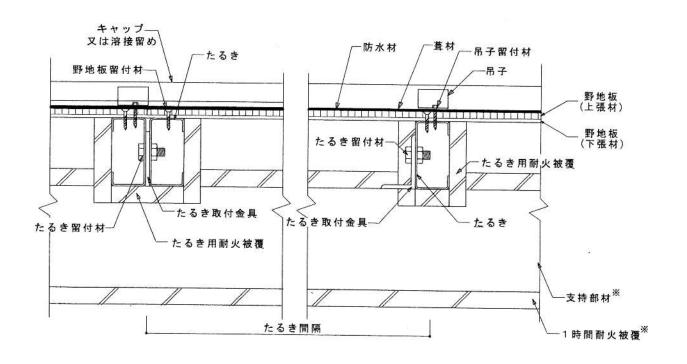
*:評価対象外

透視図

図3 構造説明図[②縦葺仕様]



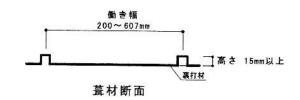
A-A'断面詳細図

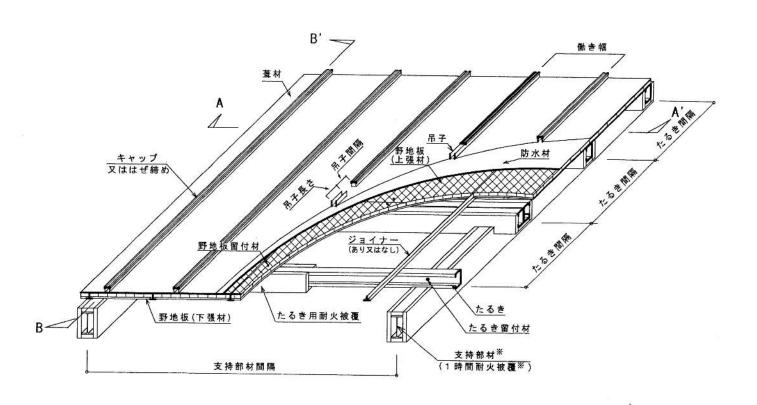


B-B'断面詳細図

※評価対象外

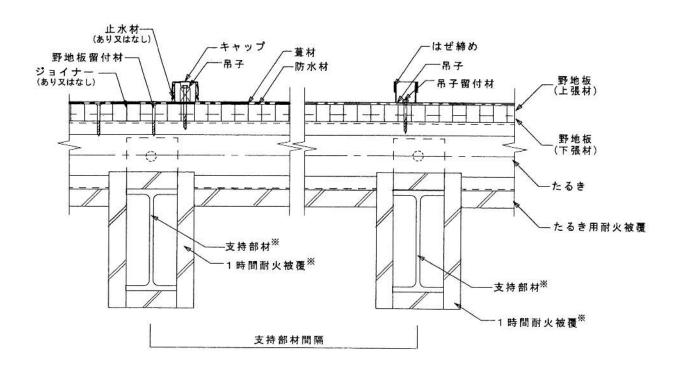
図 4 構造説明図 [②縦葺仕様]



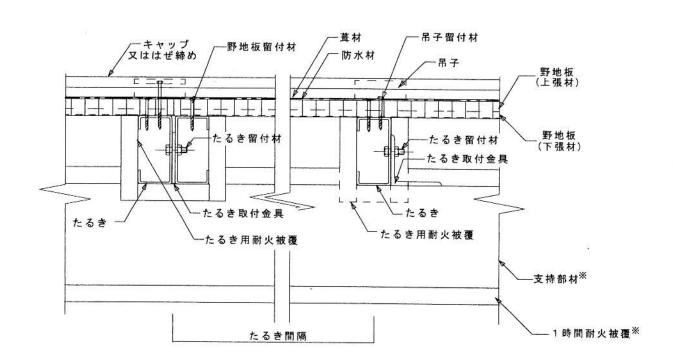


透視図

図 5 構造説明図 [③瓦棒葺仕様]



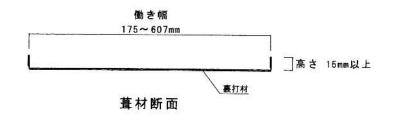
A-A' 断面詳細図



B-B'断面詳細図

※評価対象外

図6 構造説明図〔③瓦棒葺仕様〕



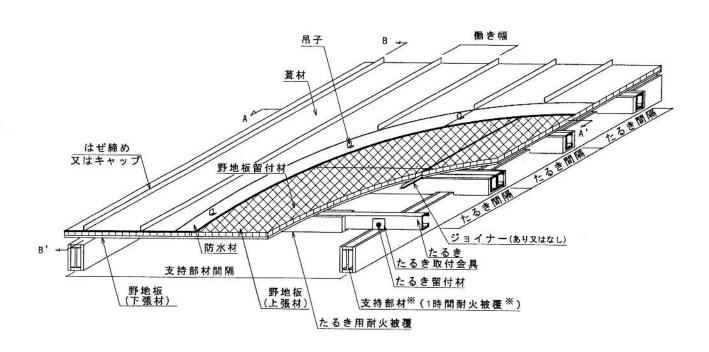
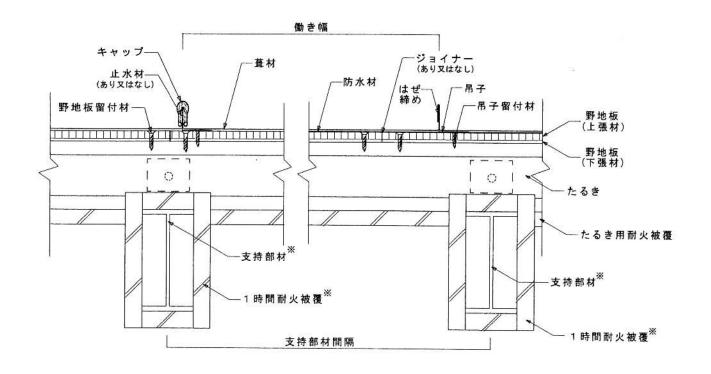
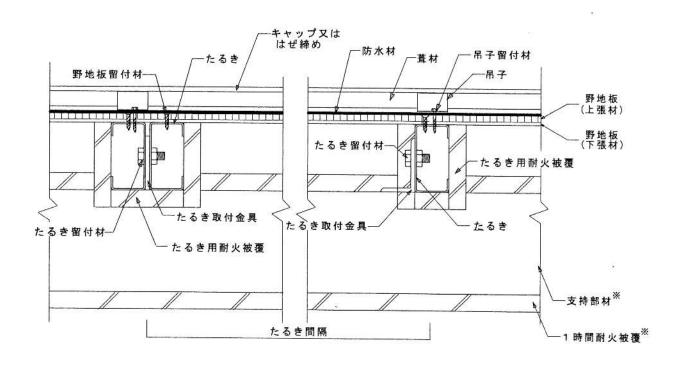


図7 構造説明図 [④立平葺仕様]



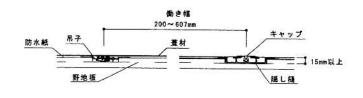
A-A'断面詳細図



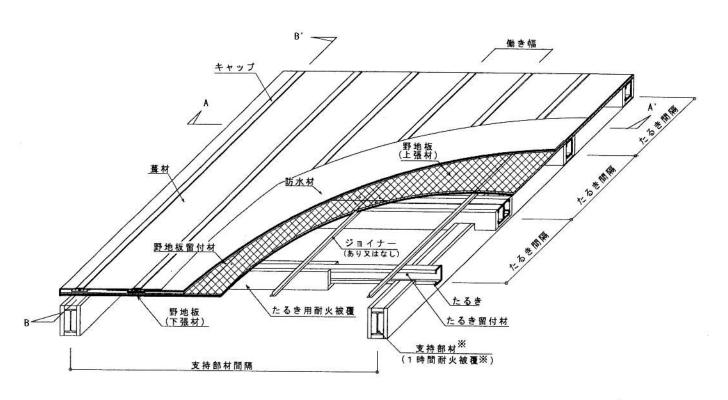
B-B'断面詳細図

※評価対象外

図8 構造説明図 [④立平葺仕様]

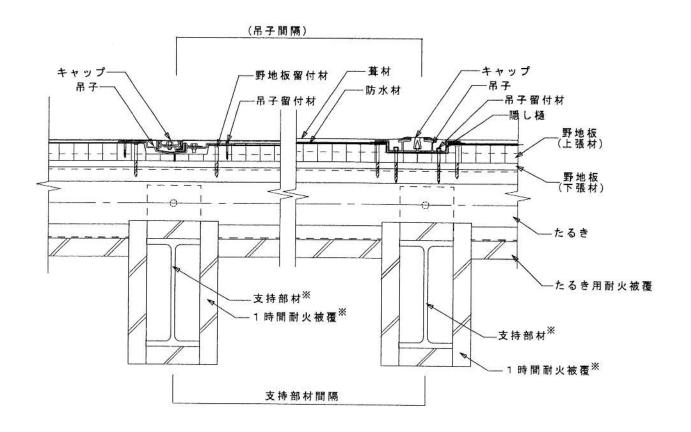


葺材断面図



※評価対象外

図 9 構造説明図 [⑤平滑葺仕様]



A-A'断面詳細図

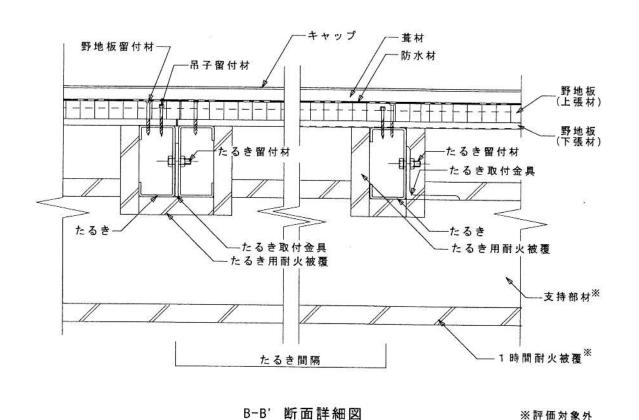
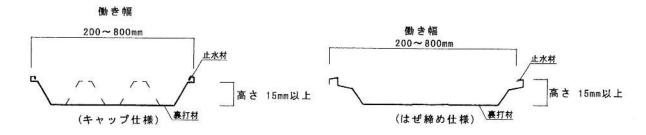


図10 構造説明図〔⑤平滑葺仕様〕



葺材断面

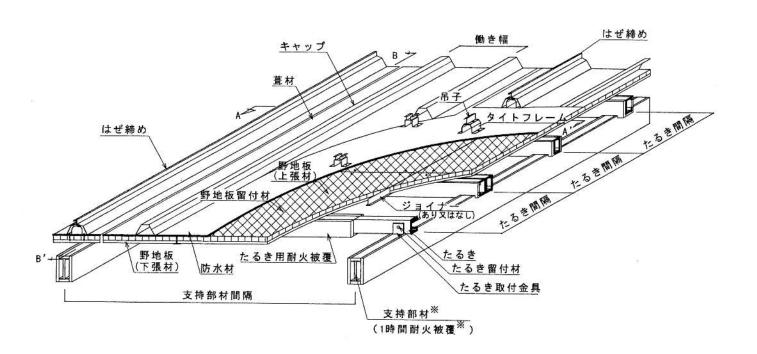
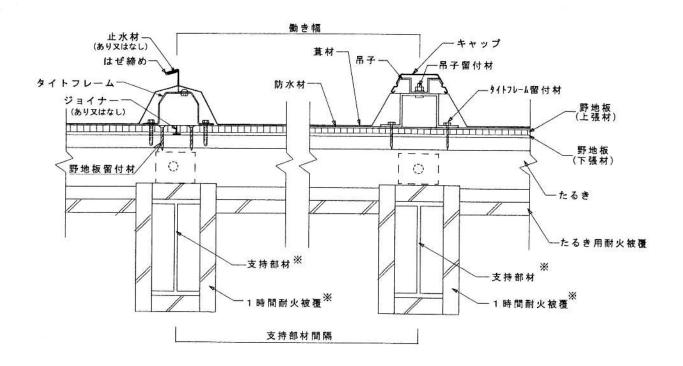
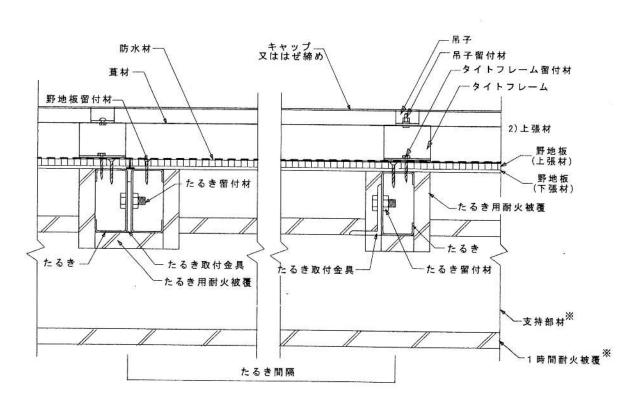


図11 構造説明図[⑥折板葺仕様]



A-A'断面詳細図



B-B'断面詳細図

※評価対象外

図12 構造説明図[⑥折板葺仕様]

6. 施工方法:

施工図を図13~図18に示す。 施工は以下の手順で行う。

(1)下地

- 1)支持部材は「構造計算により構造安全性が確かめられた寸法」とし、支持部材には1時間耐火被覆を施す。たるきの形状・寸法及びたるき間隔は「構造計算により構造安全性が確かめられた形状・寸法及びたるき間隔」とする。但し、平成12年建設省告示第1399号第4号第三号二の規定に該当する場合には、耐火被覆を施さなくてもよい。
- 2)たるき取付金具を、たるき間隔607mm以下になるように、支持部材に電気溶接等で取付ける。
- 3) たるき留付材を用いて、たるき取付金具に取付ける。
- 4) たるきにたるき用耐火被覆を張合材で取付ける。
- (2) 吸音材の敷き込み

吸音材(JIS A 6301)をたるき上に敷き込む。

- (3)野地板の取付け
 - 1)割付図に従って、野地板・ジョイナー(使用する場合)を配置する。
 - 2)取付けは野地板用留付材を用いて、野地板端部から約100mm以内の位置でたるきに留付ける。その間隔は425mm以下とする。
 - 3) 野地板はあらかじめ工場で張付けた複合板仕様※とする場合もある。 ※複合板は、あらかじめ工場で吸音材と木質系セメント板を張合材で張合せた野地板。
- (4) 防水材の張付け

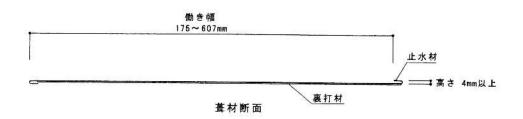
防水材を、重ね代100mm以上となるように野地板の上に敷き込む。

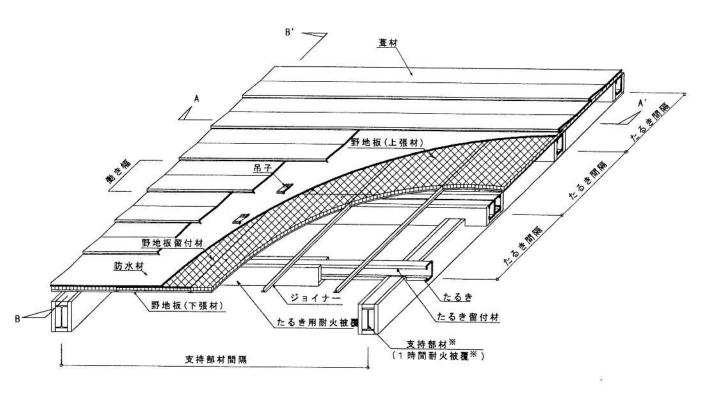
必要に応じてタッカー(工業用ステープル(JIS A 5556) 内幅12mm-足長10mm以上@1000mm)で仮留めする。

(5)屋根葺

金属板葺仕様

- 1) 葺き仕様:①横葺、②縦葺、③瓦棒葺、④立平葺及び⑤平滑葺の場合
 - ・吊子は吊子留付材でたるきに留付ける。
 - ・葺材は吊子に引っ掛け固着する。
 - ・②縦葺、③瓦棒葺、④立平葺、⑤平滑葺仕様はキャップを被せかしめて固定する。 但し、②縦葺、③瓦棒葺、④立平葺において、キャップを使用しない場合は、はぜ締め仕 様とする。
- 2) 葺き仕様:②縦葺、④立平葺の場合 防水工法は嵌合部を溶接留めとしても良い。
- 3) 葺き仕様:⑥折板葺の場合
 - ・タイトフレームをタイトフレーム留付材を用いて取付け、その上に吊子を吊子留付材で取付ける。
 - ・葺材をタイトフレームと吊子に固定する。
 - ・キャップを被せかしめて固定する。
 - ・キャップを使用しない場合は、はぜ締め仕様とする。

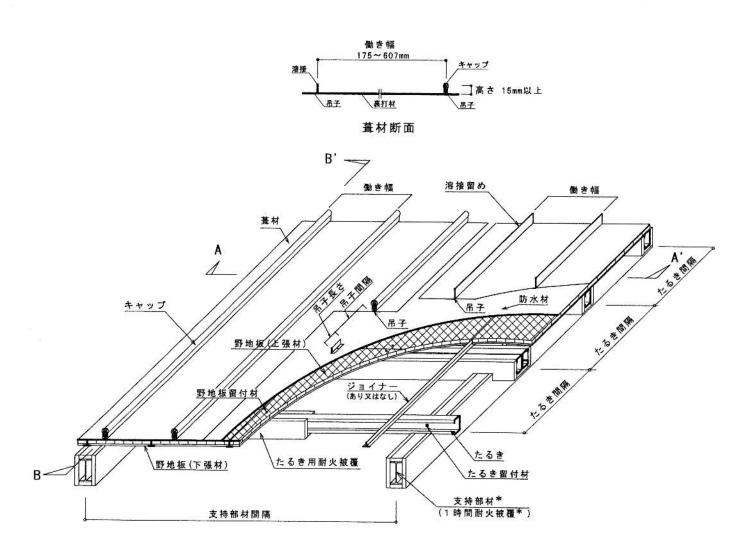




※評価対象外

透視図

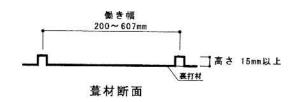
図13 施工図〔①横葺仕様〕

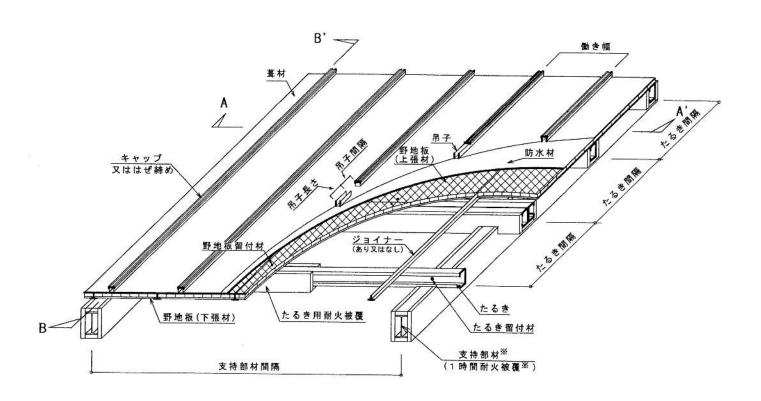


*:評価対象外

透視図

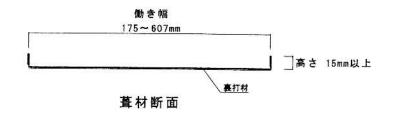
図14 施工図〔②縦葺仕様〕





透視図

図15 施工図〔③瓦棒葺仕様〕



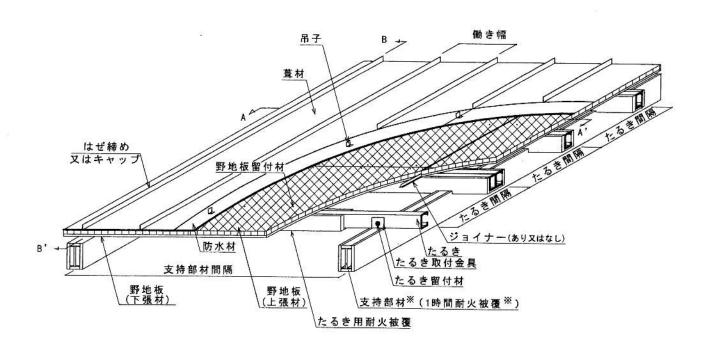
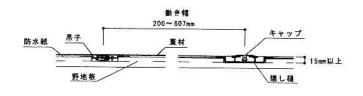
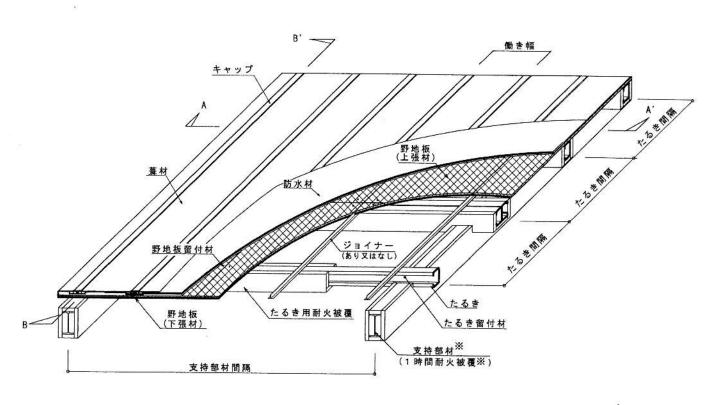


図16 施工図 [④立平葺仕様]

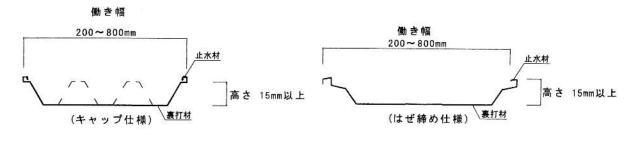


葺材断面図

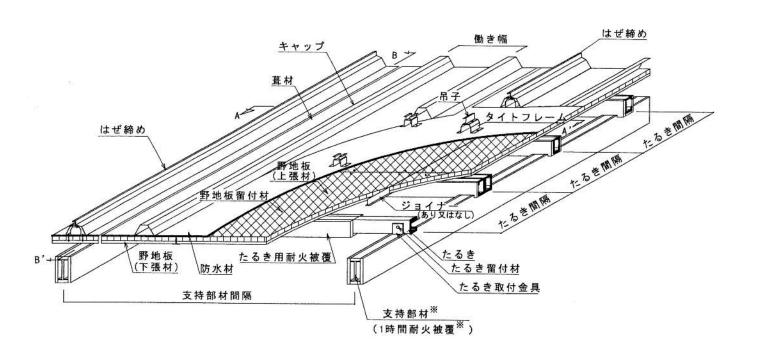


※評価対象外

図17 施工図〔⑤平滑葺仕様〕



葺材断面



※評価対象外

図18 施工図[⑥折板葺仕様]